

第2学年生活科学学習指導案

対象：第2学年1組33名

1 単元名「ぐんぐんそだて わたしの野さい

～とどけ！2年生のソウルフード～

2 単元の目標

自分で選んだ野菜を栽培する活動を通して、野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、栽培や収穫の喜びを味わい、野菜への親しみを深めたり、大切にしたりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・育てている野菜の変化や成長、野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。・野菜への親しみが増し、上手に世話できるようになった自分に気付いている。・野菜が生命をもっていることや成長すること、野菜と自分との関わりに気付いている。	<ul style="list-style-type: none">・成長を予想し、育てたい野菜を選んだり決めたりしている。・野菜の育つ場所、変化や成長に着目して、世話の仕方を工夫している。・収穫した野菜の成長や変化を思い起こし、収穫したり食べたりしたときの思いを表している。	<ul style="list-style-type: none">・大きくておいしい野菜に育てたいという願いをもって、野菜に関わろうとしている。・これまでの野菜との関わりを振り返り、これからも関わっていこうとしている。

4 食育の視点 目指す児童像「すすんでよりよい食生活を目指す子」

- ・自分で作った野菜に愛着をもつとともに、2年生全員が協力して育てた野菜を学校給食に提供し楽しく食事ができる。（食事の重要性）

5 単元について

本単元は、学習指導要領の内容（7）「動植物の飼育・栽培」を基に単元を構成し、内容構成の具体的な視点としては、「キ 身近な自然とのふれあい」「カ 情報と交流」「コ 成長への喜び」を位置付けて単元を構成している。本単元は、身近な生活に関わる見方・考え方を生かして学習活動を展開し、一人一人の資質・能力の育成を目指していく。それは、野菜の変化や成長の様子を自分との関わりで捉え、大きくておいしい野菜に育てたいという思いや願いをもって活動することである。

そのため、本単元では「一人一苗」で栽培を行う。育てたい野菜を決めたり、畑や学年花壇で協力して育て、収穫した野菜を給食の食材として使用することを目標にしたりして、自分の野菜への思いや願いを高める。そして、野菜の変化や成長の様子を観察し、自分の野菜の様子に合わせて世話の仕方を工夫する活動を継続的に行う。

また、栽培の過程で困ったことがあれば、対策を調べたり話し合ったりすることで、児童自身で解決策を考えたり、自分の野菜にする世話を自分で決めたりできるように働きかけていく。

さらに、学校栄養職員と連携を図り、児童がグリンピースの鞆むきを体験し、自分たちがむいたグリンピースが給食に出る機会を設定したり、自分たちが育てた夏野菜を給食の食材として提供する場面を用意したりして、食への関心を高めていく。単元の最後には、しもあかソウルフードの一つとして野菜の栽培を1年生へ野菜の報告を行い、自分達の成長を感じさせられるようにしていく。

年間を通して、野菜や食に関する絵本、科学読み物などを読み聞かせしていく時間を設定し、自分たちの野菜だけでなく、食に対する関心や愛情を継続して育てていきたいと考える。

6 児童の実態

1年生の時にアサガオの栽培を行った。「楽しかった。簡単だった。」と感じている児童が約7割いる中で、「難しい。大変だった。」と感じている児童が約3割いる。野菜の栽培についても野菜の選択時には、難しいとか野菜は好きではないと感じる一方で、やってみたいという意欲は高かった。野菜は苦手だが自分で育てた野菜を食べてみたいという児童は約9割いる。その理由として、「自分で一生懸命育てたから」が約7割を占める。自分が育てることで、苦手な野菜を食べてみようとする児童が一部にいる。

4月の春探しの学習では、植物や草花、虫など自然に興味をもつ児童が多かった。だが、表現としては「きれい」「いいにおい」という表現が多く、よく見て観察する力が育っていないと感じた。国語科「かんさつしたことを かこう」とも関連付けて、対象をよく見て観察する力も育てていきたい。

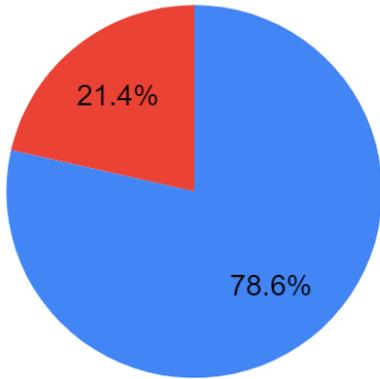
給食では、好き嫌いが目立つ。また、食べられる量も少ない児童が複数いる。特に野菜が苦手な減らしたり残したりする児童が約4分の1いる。4月の給食指導では、まず自分の食べられる量を知ることと完食を目指すことを指導してきた。

授業前に行った（5月10日に実施）児童アンケートの結果、次のようなことが分かった。

- ①野菜が好きな理由として、おいしさだけではなく体によいことを意識している児童が多い。一方で、体によいことは分かっているが、好きじゃないから食べない食べたくないと思っている児童が4分の1おり、実態として食材残しが多いことを証明している。
- ②野菜を育てる事への興味関心は高い。好きじゃないけれど食べてみたくなる気持ちが出てくることが予想できる。また、作った野菜を家族や自分で食べたいという発達段階に即した結果になっている。

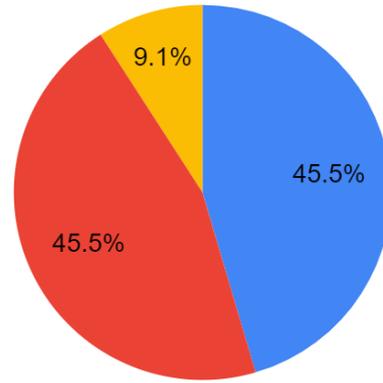
〈2年1組のアンケート結果〉

やさいは すきですか。



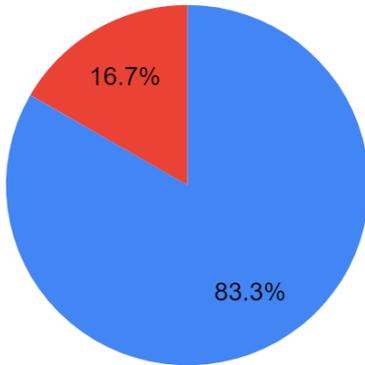
● 好き ● 嫌い

好きな わけは なんですか？



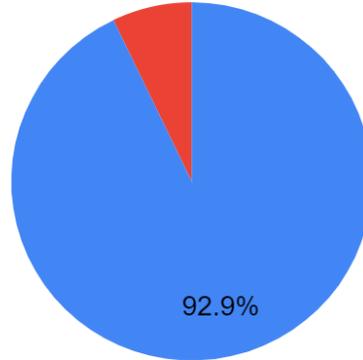
● おいしいから ● からだによいから ● たべやすいから

きれいな わけは なんですか？



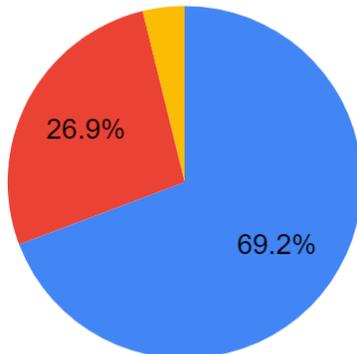
● あじがすきじゃないから ● かんだかんじがすきじゃないから

じぶんで そだてた やさいは たべてみたいですか？



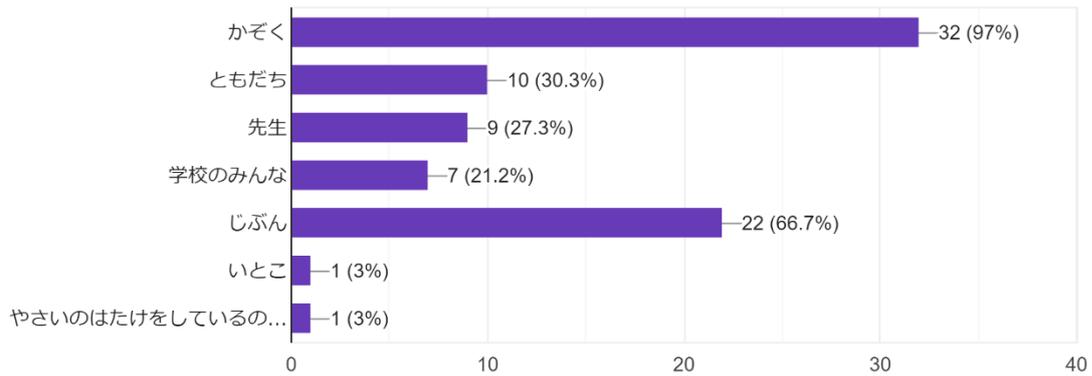
● たべたい ● たべたくない

たべたいのは どうしてですか？



● じぶんでいっしょうけんめいそだてたから ● やさいがすきだから
● すきじゃないけどたべてみたくなったから

つくった やさいを だれに たべてもらいたいですか？ (いくつか えらんでも いいです。)
33件の回答



〈参考〉全校児童による「夏野菜アンケート」 (5月16日現在の結果)



以上のことから、自分の育てた野菜なら食べてみようという思いや自分の育てた野菜が家族や全校のみんなに認められたら嬉しい気持ちなどを刺激することで、さらに食への関心を高められると考えられる。

7 研究主題に迫る手立て

●〈食に関する指導の充実〉

- ・自分の野菜を選択させる

野菜が苦手な児童でも自分で栽培した野菜には愛着がわき、少しでも食べてみようという思いをもたせる。

●〈外部人材の導入による出前授業や体験活動〉

- ・年間を通して、野菜や食に関する読み聞かせをしていく

図書館司書や学校図書館と連携し、野菜や食に関する絵本や科学読み物などを読み聞かせをする機会を設け、食に対する関心を継続して維持していく。

- ・学校栄養職員と連携し、育てた野菜を給食の献立に入れ、給食の時間に食に関する指導を継続的に実施していく

自分たちの育てた野菜を給食の献立に使用することから、自分たちの野菜からみんなの野菜という意識をもたせ、栽培の意欲を継続させ、野菜への愛着を育てていく。また、学校栄養職員が適宜栄養に関する授業を行うとともに、給食の時間には野菜を中心とした食に関する指導を継続して実施し、食への関心を高めていく。

8 単元計画（全13時間）

次	時	学習活動	食育活動（学校栄養職員との関わり）	★支援、□手立て【評価】
1次	1 ～ 3	そだてる 野さいを きめよう ・1年生での経験を想起したり教科書や図鑑、インターネット等を使って調べたりしながら、自分で栽培する野菜を決める。 ・苗を植えて、気付いたことを友達や教師に話す。	・野菜や色に関する絵本の読み聞かせを朝の時間やお昼の学習の時間などに行う。（担任も実施）	栽培する時期や場所などの条件を意識しながら、自分の育てたい野菜を決めている。【思・判・表】 ★育てやすい3種類の野菜の中から1つを選ばせる。 野菜を育てたいという思いをもち、野菜の成長に対する期待を話すなどしながら、苗植えを行っている。【態度】
2次	4 ～ 8	野さいの せわを しよう ・野菜の様子を紹介し合い、必要な世話について話し合ったり本で調べたりする。（本時） ・板橋区立赤塚植物園での農業体験プログラムに参加し、ラディッシュの収穫体験やポップコーンの種まき・植え付け・収穫の体験（収穫は2学期）をする。（地域教材の活用）	・野菜や色に関する絵本の読み聞かせを朝の時間やお昼の学習の時間などに行う。（担任も実施） ・学校の畑で栽培している夏野菜の観察と世話の協力を2年生へ依頼す	自分が育てている野菜の変化や成長に気付いている。 【知・技】 □ICTを活用して野菜の写真を撮影し、観察させる。 ★赤塚植物園での農業体験と自分達の栽培の比較をするように教師が意識した声かけをしていく。 1年生での経験を基に友達の

		<p><u>常時活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の様子を観察し、必要に応じた世話をする（草取りや施肥、支柱立て、芽かき、網かけなど）。 自分の野菜や学校の畑の夏野菜の様子を紹介し合ったり、必要な世話について話し合ったりし、野菜の成長の様子や世話の様子などを記録カードに書く。 学校栄養職員による野菜の栄養について知る。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食の食材への関わりを作る。（グリーンピースのさや剥き） 給食時に今日の献立を紹介する。（学級にて） 	<p>野菜と比べたり、調べたことを実際に確かめたりしながら、自分の世話の仕方を決めている。【思・判・表】</p> <p>□三種類の野菜の成長の仕方を比較して育て方の違いにも気付かせる。</p> <p>★野菜の育て方が分かる図書を地域図書館から貸し出しをして、児童の手に取れる場所に設置しておく。</p> <p>育てている野菜の状況に応じて、友達に相談したり本で調べたりしながら、あきらめずに世話を続けている。【態度】</p>
3次	9 ～ 12	<p>野さいのようすをつたえ合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の成長を報告する会を開き、育てている野菜の成長の様子や世話の仕方を紹介し合い、気付いたことを記録カードに書く。 <p><u>常時活動</u></p> <p>話し合ったことを生かし、朝の時間や休み時間などを使って植物の世話を続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校栄養職員による野菜の栄養についての授業（学級活動） 野菜や色に関する絵本の読み聞かせを朝の時間やお昼の学習の時間などに行う。（担任も） 	<p>★赤塚植物園でのポップコーンの苗植えと自分達の苗植えの様子を比較させる。他の野菜についての図書の読み聞かせをする。</p> <p>異なる植物にも、同じような特徴や性質があることに気付いている。【知・技】</p> <p>適切な方法で、植物の世話をしている。【知・技】</p> <p>友達の世話の仕方と、自分が育てている野菜の特徴、変化や成長の様子を関連付けながら、自分の世話の仕方を見直している。【思・判・表】</p>
4次	13 ～ 16	<p>野さいをしゅうかくしよう</p> <p><u>常時活動</u></p> <p>朝の時間や休み時間などを使い野菜の様子を観察し、熟した野菜を収穫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫したときのことを振り返り、気付いたことを紹介し合う。 かきためてきた記録カードをまとめて友達と紹介し合ったり、植物を育てる中でお世話になった方に感謝の気持ちを伝えたりする。 野菜を育てて分かったことを1年生に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫した野菜を使ったスープの献立を考える。（学級活動） 野菜や色に関する絵本の読み聞かせを朝の時間やお昼の学習の時間などに行う。（担任も） 	<p>自分が世話を工夫したことで植物が大きく成長したことや上手に世話をすることができるようになったことに気付いている。【知・技】</p> <p>植物を育てることのよさを実感し、植物に親しみをもって、これからも植物と関わろうとしている。【態度】</p>

9 本時の指導（16時間扱いの5時間目）

（1）ねらい

育てている野菜をよく観察し、成長の様子に気付き、よりよい世話の仕方を考えることができる。

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	●指導上の留意点 ☆評価【評価方法】
導入 7分	<p>T2：○すきな夏野菜のアンケートの結果や給食の残食の量を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私のすきな野菜があるな。 ・ピーマンが嫌いな人が多いな。 ・野菜が好きな人も嫌いな人もいるな。 ・野菜を嫌いな人がたくさんいるな。 <p>T2：○みんなに美味しい野菜を育ててもらい、学校みんなに食べてもらいたいという依頼を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに食べてもらいたいな。 ・野菜が美味しいことを知ってもらいたいな。 <p>T1：○今日のめあてを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜をもっともっと大きくおいしく成長させるためにはどうしたらよいか考えよう。 	<p>●T2がアンケートの結果を伝えたり、実際に使用しているバケツを用意し見せたりして、学校全体でも野菜が苦手な食べ残されている現状に気付かせる。</p> <p>●T2から、おいしい野菜を作るにはどうしたらいいかを考えてもらうことと、学校の畑で育てている野菜の世話を2年生に依頼したいと伝える。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて もっともっと 大きく おいしく せいちょうさせるためには どうしたらよいか かんがえ これからの お世話をきめよう</p> </div>	
展開 23分	<p>T1：○今の野菜の様子をよく観察し、変わったところや困っていることを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉が大きくなってきたな。 ・葉の色が黄色くなっているな。 ・ミニトマトが赤くなってきたよ。 	<p>●自分の育てている野菜をよく観察する時間を十分に確保する。</p> <p>●大きさや色などに注目するよう助言する。</p> <p>●オクリンクで写真を撮り、気付いたことをメモする。（タブレットの使用）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ナスができたけど少し硬いな。 ・ピーマンが大きくならないな。 ・新しい花が咲かないな。 ・ミニトマトが取れて落ちちゃった。 <p>T1:○これからどんな世話をしていたらよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やりを忘れずにする。 ・肥料をあげないといけないかな。 ・もっと、調べないといけないな。 ・分からないから誰かに教えてもらいたいな。 	<p>●T2は、野菜のおいしさ、T1は成長につながる助言をする。</p> <p>☆【知・技】成長の様子に気が付いている。【オクリンク・発表】</p>
<p>ま と め 15 分</p>	<p>T2：○実際の食材の量や昨年度の3年生の活動の様子を知り、これからの栽培活動への意欲を高める。</p> <p>T2：○本時のふり返しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとお世話をがんばりたいな。 ・野菜をみんなに食べてもらいたいな。 ・もう少し調べないといけないな。 ・肥料をあげないといけないな。 	<p>●実際の食材の納品の様子を動画で撮影したものを実際に使用している大ざるを用意し見せ、児童の思考を価値付ける。</p> <p>●昨年度の下赤大根研究所の様子をスライドで見せ、自分の野菜から学校の野菜へ視野を広げさせる。</p> <p>●数名の児童のふりかえりを紹介し、次回にしていくことを全体で確かめる。</p> <p>☆【思・判・表】自分の野菜の成長や栽培について、前向きに関わろうとして、これからの野菜の世話について考えている。【ワークシート・発表】</p>

10 板書計画

めあて もっともっと大きく おいしく せいちょうさせるためには どうしたらよいのか かんがえよう		ナス・ミニトマト ・ピーマンの写真
野菜アンケートの結果	気づいたこと	ひつようなお世話
給食の残菜の写真		

11 ワークシート

2年 くみ ばん なまえ

きょうの ふりかえり

①じぶんの やさいを よく見て かわったところや こまったところを
見つけられましたか。

よくできた ◎ できた ○ もうすこし △

②きょうの 学しゅうを おえて どんな やさいに そだてたいですか。

③そのために、どんなことをしたら よいと おもいますか。

12 成果と課題

〈成果〉

- 1人一鉢で野菜を栽培することで、それまで苦手としていた野菜でも愛着をもって野菜に関わることができた。学校の畑や花壇で栽培している野菜に対して、自己の学習の成果を生かし関わることができた。
- 学校給食に自分達の関わった野菜を食材として提供することで、食への関心を高め、給食時に前向きに取り組む姿が見られるようになった。

〈課題〉

- ▲収穫の時期や収穫量の違いがあり、選択した野菜によって児童の関心の高さに差が出ていた。
- ▲畑や花壇の野菜への児童の関わりの時間の確保が難しかった。畑が見えにくいところにあり、全校への情報提供が不十分であるように感じた。

13 講師の先生から

- ・「食育」とは、「食は大切!」、「食は楽しい!」と感じてもらうこと。
- ・教科のねらいを達成するための手立てとしての「食」を考えていく。
- ・生活科として、観察のポイントを明らかにし、五感を働かせて「食」を感じ取り、言葉にしていくことで「体験は言葉を豊かにし、言葉は体験を深める」ことができる。
- ・観察は繰り返し行っていくとよい。
- ・食を知ることで楽しむことができ、楽しめたら大切にすることができる。
- ・身近な食を生かして、匂や体験をたくさん伝えていける機会を低学年はしていくとよい。
- ・実物を持ってきて、感動させる、考えさせるきっかけを量的に伝えていく。同じ内容でも栄養士の先生がいるだけでも効果的。
- ・活動の前に「ねらい」を先に決め、活動を計画していく。
- ・低学年として食育の評価は、食の重要性がよい。本時で食に興味をもち、知らない食材でも、一口でもチャレンジしていければよい。
- ・教科のねらいと食育の視点には3つの形がある。①両方が含有している。②少しの重なりがある。③接するだけ。常に①になるとは限らない。